

<AKFセミナー> オンライン講座 コンプライアンス担当者入門

② コンプライアンス類似概念との比較

講師：角淵 渉
アクア ナレッジ ファクトリ株式会社

PDF版テキストは説明欄のリンク先から
ダウンロードできます。

コンプライアンス担当者入門



コンプライアンスの類似概念

- ① リスクマネジメント（リスク管理）
- ② 危機管理（クライシスマネジメント）
- ③ コーポレートガバナンス（企業統治）
- ④ CSR（企業の社会的側面）
- ⑤ 内部統制と内部監査

コンプライアンス担当者入門



類似概念① リスクマネジメント（リスク管理）

Risk Management

基本概念

リスク(危険)を予測し、その影響を極小化するための取り組みを指す。予めリスクを想定し、想定されるリスクに対する備えを行う。保険理論等に伴って発展してきた経営手法である。

相互の関係

コンプライアンス経営の基本はコンプライアンス・リスクと呼ばれる危険に対する備えを行うことである。その意味でコンプライアンス経営の基盤となる手法であるといえる。

一方で、リスクマネジメントは巨大災害や景気変動なども対象とする点で、より広範かつ一般性の高い経営手法であるといえる。

関連用語

- ISO31000(リスクマネジメントの一般原則等)
- ERM(全社的リスク管理)
- リスクマップ(リスク評価の手法)
- リスク心理学(ヒューマンエラーなど)

コンプライアンス担当者入門

リスクの3要素

- A) ハザード(危険な状態)
- B) エクスポーチャ(失われる価値)
- C) ペリル(損失原因)

リスクの評価軸

- ◆ 想定される影響(強度)
- ◆ 損失発生の可能性(頻度)

リスクマネジメント・プロセス

- ① リスク発見
- ② リスク評価
- ③ リスク対策立案
- ④ 対策導入と実行
- ⑤ モニタリングと継続改善

主なリスク戦略

- リスク排除(回避・移転)
- リスク軽減(影響抑制・発生抑制)
- 管理可能性向上(分散・結合)
- リスクファイナンス(保険・保有)



類似概念② 危機管理（クライシスマネジメント）

Crisis Management

基本概念

想定外の事態が発生した際、それを迅速に検知し、適切な対応行動により、悪影響を極小化し、早期の原状復帰を図る経営手法である。リスクマネジメントが事前対策に重きを置くのに対して、より事後対応を重視する経営手法である。

相互の関係

コンプライアンスは不祥事の防止に重点を置くが、起きてしまった事件・事故への対応も欠かせないため、コンプライアンス体制の構成要素の一つとして危機管理を位置づける組織が多い。

ただしリスクマネジメントと同様に、危機管理では巨大災害やパンデミックなどのような人災以外の要素も考慮に入れる点で、コンプライアンスよりも広い概念であるといえる。

関連用語

- ISO22300シリーズ(社会セキュリティ・事業継続)
- BCP(事業継続計画)・BCM(事業継続マネジメント)
- クライシスコミュニケーション(危機公報)
- 内部通報制度

コンプライアンス担当者入門

危機の定義

危機とは、個人および団体または組織が通常の日常業務では、対応できない、突然の変化によってストレス状態になっている状況のことである。(大泉光一)

危機管理プロセス

- ① 危機発生の察知(認識)
- ② 危機管理の発動(認定)
- ③ 被害拡大防止策の実施
- ④ 事態収束策の実施と事後処理
- ⑤ 再発防止策の検討と実施

危機管理の原則

- 集中の原則(情報の集約)
- 分散の原則(適切な権限委譲)
- 専従の原則(定常業務からの解放)



類似概念③ コーポレートガバナンス（企業統治）

Corporate Governance

基本概念

株主から資本を預かった取締役(会)が、それを最大限に活用して株主利益を図り、また不慮の損失を回避するために、企業全体を適切に統治することを意味する。近年、取締役会改革に焦点が当たることが多い。

相互の関係

コーポレートガバナンスの議論は、会社法等の法律論の側面と、経済社会の中で会社は如何にあるべきかという根本理念の議論に大別される。コンプライアンスはコーポレートガバナンスの最重要課題の一つとして捉えられる。しかし、コーポレートガバナンスでは「社会による企業統治」という側面も重要であるため、より広い概念であるといえる。

関連用語

- 会社法
- コーポレートガバナンス・コード
- Comply or Explainの原則
- プリンシプルベースアプローチ（⇔ルールベース）

コーポレートガバナンス・コード

- 第1章 株主の権利・平等性の確保
- 第2章 株主以外のステークホルダーとの適切な協働
- 第3章 適切な情報開示と透明性の確保
- 第4章 取締役会等の責務
- 第5章 株主との対話

OECDコーポレート・ガバナンス原則

- I 効果的なコーポレート・ガバナンスの枠組みの基礎の確保に向けて
- II 株主の権利と所有に係わる主要な役割
- III 株主に対する平等な取り扱い
- IV コーポレート・ガバナンスにおけるステーク・ホルダーの役割
- V 情報開示と透明性
- VI 取締役会の責務

コンプライアンス担当者入門



類似概念④ CSR（企業の社会的側面）

Corporate Social Responsibility

基本概念

CSRとは、文字通り企業の社会的責任のことである。企業が果たすべき社会的責任には、社会のルールを守ること、事業による利益の実現（雇用創出、納税など）、及び余力をもってする社会への奉仕活動があるとされる。経済的利益のみを経営目標とするのではなく、社会と調和し、社会から求められる会社になろうという取り組みでもある。

相互の関係

CSRの取り組みはコンプライアンス経営と親和性が高い。狭義のコンプライアンス（法令遵守など）をCSRの必要条件とし、これに十分条件として社会貢献を加えた取り組みがCSRであるという捉え方ができる。

関連用語

- ISO26000（組織の社会的責任ガイダンス）
- SDGs（持続可能な開発目標）
- CSV（共通価値の創造 Creating Shared Value）
- サステナビリティ（持続可能性）
- CSR報告書とGRI(Global Reporting Initiative)
- 社会的責任投資（SRI）とESG投資

CSRの重要概念

- ステークホルダ（利害関係者）の識別
- 企業倫理
- トータルな企業価値の最大化
- 説明責任の履行
- コンプライアンスとリスクマネジメント
- 持続可能な社会の実現

CSRの背景

- 企業の巨大化と技術の発達
- 地球の有限性の認識
- 社会の成熟化（人権意識の拡大）
- 急速な国際化の進展

主な取り組み(例)

- ◎ 環境経営の実現
- ◎ フェアトレード
- ◎ メセナとフィランソロピーの実践
- ◎ 反社会性の回避（コンプライアンス）
- ◎ ダイバーシティの尊重
- ◎ ボランティア活動の奨励

コンプライアンス担当者入門



類似概念⑤ 内部統制と内部監査

Internal Control & Internal Audit

基本概念

内部統制とは、経営効率の改善、正しい財務報告の実現、及び法令遵守の徹底のために必要な組織機構の設計と業務プロセスの確立を意図した取り組みである。内部監査はその健全性をモニタリングする仕組みである。

相互の関係

内部統制は業務効率を維持しつつ、法令や社内ルールの遵守を徹底させることを目指す取り組みであるため、リスクマネジメントの一環であるという理解ができる。同時にコンプライアンス経営のための手法の一つという理解もできる。

内部監査は内部統制の有効性を点検するための手法であるため、コンプライアンスの徹底状況の確認手段としても有効である(コンプライアンス監査)。

関連用語

- 会社法と金融商品取引法(J-SOX法)
- COSOフレームワークとCOSOキューブ
- 内部統制報告書
- 経営監査とリスクアプローチ監査

コンプライアンス担当者入門

内部統制の4つの目的

1. 業務の有効性および効率性
2. 財務報告の信頼性
3. 事業活動に関わる法令等の遵守
4. 資産の保全

内部統制の6つの基本的要素

1. 統制環境
2. リスクの評価と対応
3. 統制活動
4. 情報と伝達
5. モニタリング(監視活動)
6. IT(情報技術)への対応

内部監査の実施手順

- ① 内部監査計画の立案
- ② 監査の実施
- ③ 評価と検証
- ④ 要改善事項の指摘
- ⑤ 報告書の作成
- ⑥ 改善活動とフォロー監査



まとめ (コンプライアンス類似概念との比較)

リスクマネジメント (リスク管理)

危機管理 (クライシスマネジメント)

コーポレートガバナンス (企業統治)

CSR (企業の社会的側面)

内部統制と内部監査

コンプライアンス担当者入門



お疲れ様でした。

次回は

「③ コンプライアンス体制の理解」
です。

PDF版テキストは説明欄のリンク先から
ダウンロードできます。

コンプライアンス担当者入門

